

第66班ボランティア 感想文

3年E組 A. M. (草加市立草加中学校出身)

石巻・東松島に「行く前」と「行ってから」の違いは何か。
あなたは参加して「何を感じ、何を考え」ましたか。そして、この瞬間から「何を行動」しますか。

行く前は、小学生たちと上手く接して勉強を教えてあげられるかと心配していましたが、行ってからは、小学生たちがとても元気いっぱい、逆に私たちが元気をもらいました。

今回このボランティアに参加してみて、震災のことを忘れてはいけないこと、多くの人々に震災のことを伝えなければいけないと感じました。

「ボランティアに参加して」

私は、このボランティアに参加してたくさんのことを学びました。

小学校で学習サポートをしている時、子どもたちがすごく集中して勉強していたのですごいなと感じました。しかし休み時間になると、とてもフレンドリーに話しかけてくれました。勉強時間と休み時間のメリハリがきちんと出来ていてとても良い子たちだなと思いました。私はその姿を見て、自分もきちんと勉強する時は集中して行い、遊ぶときは遊ぶというメリハリをつけようと改めて思いました。

鹿妻・子鹿クラブの子どもたちとバーベキューをした時、女の子がホタテの食べ方を教えてくれました。牛タンやサイコロステーキなどおいしいものをたくさん食べることが出来ました。貴重な体験が出来て良かったです。

寄磯小学校の佐々木校長先生の講話では、貴重な話をたくさん頂きました。寄磯のことや小学校のこと、子どもたちのことを聞きました。中でも私の心に残ったのは、震災の話しの中でお話されていた「人生に無駄なことなし！チャンスの船に乗れ！」という言葉でした。この言葉を聞いて、何でも積極的に一度はやってみようと思いました。



大川小学校に行った時、畠山さんからお話を頂きました。自分の命は自分で守るということについてとても貴重な話を頂きました。避難訓練や防災に関する活動を積極的に参加して、自分の命はもちろん、人の命を守ることが出来るような人になりたいと感じました。

今回のボランティアは、一般的なボランティアでは経験することが出来ないことがたくさん出来ました。私は今回石巻・東松島のボランティアに初めて参加しましたが、1・2年生でも行っておけば良かったと後悔するほど楽しく、貴重な体験がたくさん出来ました。第66班としてボランティアに参加出来て本当に良かったです。

今回学んだことを家族や友人など多くの人に伝えていきたいです。また、私自身もこの4日間で学んだことを活かして、これからの進路活動や日々を過ごしていきたいと思います。4日間ありがとうございました。

3年F組 M. K. (蕨市立第一中学校出身)

石巻・東松島に「行く前」と「行ってから」の違いは何か。
あなたは参加して「何を感じ、何を考え」ましたか。そして、この瞬間から「何を行動」しますか。

行く前は早く復興して仮設住宅もなくなると良いなと思っていましたが、必要としている人がいると知り、なくさなくとも良いなと悪い面ばかりでなく、良い面を知る事が出来ました。

この震災は悪いことばかりでなく、避難の仕方の見直しなど、自分自身、考え直さなければいけないと気づくことが出来ました。

「ボランティアに参加して」

私はボランティアに参加して学んだこと、感じたことがたくさんあります。まず、一番大きな仮設住宅がなくなったと聞いて少し嬉しい気持ちになりました。しかし、まだ仮設住宅はあり、早く全部なくなると良いと思いましたが、お年寄りなど引越したくても引越しをすることが出来ないという話を聞き、仮設住宅は無理して、なくさなくとも良いと思いました。

今までの震災では、被害を受けた家や小学校などの建物しか実際に見たことがありませんでした。震災復興伝承館へ行き、駅や券売機、地域ごとの写真など、建物以外のものを初めて実際に見ることが出来て改めて被害の大きさを感じました。

また、遊覧船に乗った時、船長さんが島の名前の由来を詳しく説明してくださりとっても勉強になりました。最初はアーチ状になっていた島が津波によって崩壊し全く別の形になってしまった事、少しの波で船が激しく揺れる体験をし、水の威力の恐ろしさを感じました。そして船に乗っていた時、すれ違う漁師さんに手を振って頂き、地域の人々の温かさを感じました。小学校の校長先生の話聞いた時に、「是非、地域の良い所を見つけて下さい。」と言っていたので、見つけることが出来て嬉しかったです。

また、子どもたちに接する際に、先生方は敢えて震災のことは気にせず笑顔で接していると言っていました。しかし伊藤さんの話では、震災の話を人に話すことをやめてしまったことによって人が変わってしまった人もいると聞きました。時には話をしっかり聞いてあげることも大切だということを知ることが出来ました。

このボランティアに3年間参加して、自分ひとりでは体験できないことをたくさん体験出来ました。他の地域のことでも知ることが出来、とても多くのことを学ぶことが出来ました。まだ知らないことはたくさんありますが、自分が知っていることはたくさんの人に伝えていきたいです。



石巻・東松島に「行く前」と「行ってから」の違いは何か。

あなたは参加して「何を感じ、何を考え」ましたか。そして、この瞬間から「何を行動」しますか。

行く前は震災に関して深く考える事などありませんでした。

行ってから、多くの物や人々を見て、今までは自分に出来る事は少ないと思っていました。しかし小さな事でも仲間のためにしてあげられる事があると気づき、これからはその小さな「自分に出来る事」を見逃さないように、考えながら日々を過ごしていきたいと思いました。

「ボランティアに参加して」

今回ボランティアに参加して、日々過ぎていく時間は怖いな、と改めて感じました。6年前までは多くの方が今の私たちのようにそこに住み、家があり、生活していたけれど、一瞬で全てがなくなりました。更に数年で人々の記憶から薄れ、家があった場所は取り壊され、今は草が生えている、という現場を見た時、本当に時間というのは何気ないけれど、大切に、何物にも変えられない貴重なものだという事を実感しました。そのため、私はこれからの夏休みや高校生活の一瞬一秒を大切に、将来のために過ごしていきたいと思いました。

更に今回、私はC組(特進クラス)という事で、学習支援が一番自分に出来る事だと思い、第一希望にしました。この学習支援のお別れの時、担当した子に「苦手な算数を教えてもらいしっかり解けた。ありがとう。」と言ってくれました。私が今回のボランティアで他の人の助けになっている事が実感でき、とても嬉しく、誇らしく思いました。今自分が持っている実力と、出来る事をしっかり見極め、自分にしか出来ない事というものを探していきたいと思います。そしてそれを成し遂げるために日々の小さな努力が必要だと思いました。自分がするべき事をしっかりしていきたいです。

そして初日に加藤先生から注意を受けた際、車谷さんに言っていただいた「苦言を呈す者、師と思え」という事はまさにその通りだと思いました。もし自分の事を何とも思っていない人なら何も言わない。何か言ってくれているという事は自分の事を考えてくれているという事だと思いました。私もよく先生方から言われる事があります。それを「説教か、嫌だな」と思うのではなく「期待に応えられるように努力しよう」と思えるような素晴らしい人間になりたいと思いました。そのために今から周りの方々に耳を傾け、自分に出来る事、習得できるものを見つけ、見合った努力をし、人間性や知恵を手に入れていきたいと思いました。今回は本当にありがとうございました。

石巻・東松島に「行く前」と「行ってから」の違いは何か。

あなたは参加して「何を感じ、何を考え」ましたか。そして、この瞬間から「何を行動」しますか。

行く前は、震災での辛かった記憶は早く忘れて新しい生活で幸せになった方が良くと思っていました。しかし忘れるのではなく、語り継いでいき、次に同じような津波が襲ってきたときに多くの被害が出しまわれないようにすることの方が大切なのではないかと気づきました。震災時、何を一番優先すべきなのかを広めていきたいです。

「ボランティアに参加して」

私は今回66班として初めて石巻・東松島のボランティアに参加しました。震災が起きてから6年が経ち、少しずつ新しい家が建っているのを見て、予想よりも早く復興していると思いながら東部道路からの景色を見ていました。しかし遠くの方にある木々に所々隙間が見えた時はやはり津波が襲った地域なのだと実感しました。そして、東部道路があって良かったと思いました。

まず、大原小学校に行きましたが、私は上履きを大きな荷物の方に入れてしまい、小学校のスリッパをお借りしてしまいました。このボランティアで一番反省すべきことだったと思います。前からしおりを配られていたのに、日程が大まかにしか頭に入っていませんでした。このことは普段の生活でも大切な事なので、状況から読み取れるようになりたいと思いました。大原小学校のみなさんは本当に明るく迎えて下さって嬉しかったです。勉強・運動どちらにも一生懸命な所は

今の私にないので、見習いたいと思いました。

私が一番印象に残っているのはやはり大川小学校に行ったことでした。生徒も教員もたくさん亡くなって、助かったのはたった5人だと聞いて、津波の恐ろしさを改めて知りました。校庭での51分間や裏山は子どもでも登れる所だったこと、もし校舎が普通の3階建てだったら助かっていたかもしれないというお話はどれも聞いていて胸が痛かったです。校長先生もあまり長くはいたくない場所だと仰っていましたが、話を下さって本当にありがたかったです。校長先生の、自分がおかしいと思ったら別の選択をして自分の身を守る、というお話は本当にそうだなと思いました。でもその選択をするために、勉強が必要だと補足があったとき、何のために今まで勉強してきたのかが分かりました。勉強なんてやらなくても生きていけると思っていました。しかし社会では答えがないことの方が多く、教科書も先生もいない所で、いかに間違っただけの選択をしないようにするか、これが勉強だと今更ながら分かることが出来ました。

このボランティアでは、大原小学校のみなさんや野球少年や普段関わることがない他のクラスの人たちと仲良くなれたことはとても嬉しかったです。ボランティアに行ったからこそその縁だと思うので、行って良かったです。大原小学校の生徒さんや勉強を教えていた野球少年に「また来年も来てください。」と言われたので、来年も行きたいです。もし来年行けたら、また景色が変わっていると思うので楽しみです。それから、ボランティアに行かせてくれた両親、引率の先生方、石巻・東松島の方々に感謝しています。多くのことを学ぶことが出来て良かったです。本当にありがとうございました。

2年F組 R. M. (川口市立鳩ヶ谷中学校出身)

石巻・東松島に「行く前」と「行ってから」の違いは何か。

あなたは参加して「何を感じ、何を考え」ましたか。そして、この瞬間から「何を行動」しますか。

東日本大震災に対する意識、防災に対する意識が変わりました。私たちに当時について話して下さっている時の心情や心の傷の深さなどを感じ、私たちは被災者の方々にどうしたら元気を与えられるか、どんなことが心の復興につながるかを考えました。私たちが同じような状況になった時、東北の方々の辛い体験や悲しい出来事を繰り返さないために、まず自分の命は自分で守る、その後他の人を助ける行動をします。

「ボランティアに参加して」

私は、今回のボランティアに参加するまで、東日本大震災は、ただの大きな地震という印象でした。しかし、ボランティアに参加することになってから、少しずつ震災に対する意識が変わってきました。今まではあまり考えたことのなかった被害の大きかった東北の人々のことを考えるようになりました。地震が起きた当時のこと、その後起きた津波による恐怖、また津波により全てを失った人々のその後の生活など、自分の頭の中で想像しましたが、限界がありました。その時、ボランティアの事前指導で先生方からの話を聞き、私でも被災者の方の役に立てることがあるのではと思い、役に立てるように頑張ろうと思いました。

そして実際に現地へ行くと、そこには新しいお店や家、堤防が建設され始め、きれいな街並みが出来つつありました。復興が進んでいるのは良いことですが、被災者の方の生の声を聴くと、復興が進むことに対し嬉しい反面、今まで自分達が住んでいた町の風景と変わってしまうことに対して悲しく辛い気持ちがあることに気が付きました。

また、被災地の小学生と一緒に勉強や遊ぶことを通じて、この子どもたちが毎日元気に過ごすことで、周りの大人の方々は元気をもらっているのだと思いました。実際、私も子どもたちから元気をもらいました。

そして大川小学校へ訪問した時、畠山先生のお話を聞き、大川小学校の校舎を見て、言葉では表せない気持ちになりました。

これらの体験を通して、今まではあまり考えなかった防災について考えるようになりました。実際に災害が起きた時、今回学習したことを活かした行動をとり、また被災者の方が辛い思いをしながらも話し、教えて下さったことを無駄にすることのないように、自分の周りの人にも伝えていきたいと思いました。また、自分の将来の夢に対する勉強として、大原小学校の先生方から、子どもたちと接する際の態度や話し方、どうすれば子どもたちがやる気になってくれるかなどたくさん学ぶことが出来ました。今回のボランティアに参加し、見たり聞いたり知ったことを、これからの自分の人生に活かしたいと思いました。

石巻・東松島に「行く前」と「行ってから」の違いは何か。

あなたは参加して「何を感じ、何を考え」ましたか。そして、この瞬間から「何を行動」しますか。

行く前は、子どもたちはあまり元気がなさそうだと思いましたが、行ってみると、すごく元気で逆に元気づけられました。子どもたちの元気な姿を見て、常に前向きにしようと思いました。

「ボランティアに参加して」

私は、石巻・東松島のボランティアに参加したのは2回目ですが、前回と違う交流活動に参加しました。前回と比べて被災地の現状は少しずつ良くなってきていると思いました。大原小学校の古積校長先生に「谷川小学校」と「大原小学校」の震災当時の話を聞かせてもらい、学ぶことが出来ました。

今「大原小学校」は、震災で無くなった「谷川小学校」の伝統を受け継ぎ、谷川小学校を忘れないようにし、とても素晴らしいと思いました。大原小学校の子どもたちは、笑顔で明るく、小学校5、6年生たちは、当時震災があったことを忘れてしまうくらいみんな元気で、逆に自分は元気をあげないといけない立場なのに、その姿を見て元気をもらってしまいました。



震災から6年経っても、震災当時のままの家はいくつかありました。私はそれを見るたびに悲しい気持ちになってしまいました。しかし、ほとんどは復興住宅やマンションなど、復興状況が見ることが出来てすごく感動しました。

大川小学校の説明は2回聞いても「死ぬ」や「生きる」などの言葉が身に染みしました。その場所だけは何度行っても同じ石巻なのに何かが違う、空気も他の場所とは違うと思います。この思いは、言葉で表すと難しいので、実際に行ってみないと分からないことをみんなに伝えられると良いなと思います。本当に貴重な体験が出来たと思います。

これを通して、私は将来の夢「小児科看護師」に何があっても必ずなりたいと思いました。子どもたちが教えてくれたのだと思います。この恩は絶対に忘れません。もし今後の人生に役立つことが出来たら良いなと思います。

石巻・東松島の人たちはやっぱり良い人だなと思いました。来年も参加したいです。このボランティアで関わった人にお礼がしたいです。本当にありがとうございました。

今年度着任された寄磯小学校の佐々木校長先生は、生徒の前でギターを披露してくださいました。大原小学校の古積校長先生は、社会科がご専門で埼玉と宮城の違いを詳しく話してくださいました。生徒たちの心に大きく響くものでした。ありがとうございます。

石巻・東松島に「行く前」と「行ってから」の違いは何か。

あなたは参加して「何を感じ、何を考え」ましたか。そして、この瞬間から「何を行動」しますか。

初めて参加した3月のボランティアは、人手が足りないと感じていました。しかし今回参加した8月のボランティアでも人手が足りないと感じました。若い人が少ないというのも1つだと思いますが、1番は無くなったものが大きい事、人が石巻・東松島などから離れてしまっている事だと考えました。

私自身が何を為せる訳ではありませんが、少しでも多くの人々が石巻・東松島で暮らせるように、良いところを広めて行けたらと思いました。

「ボランティアに参加して」

私が今回のボランティアに参加して思ったこと、感じたことは3つあります。

1つ目は、答えが全てではない、1つではないということです。数学や理科といった勉強には常に答えがあります。勉強は1つの答えに向かって問題を解きます。学校でそう教わっています。しかし生き方や人生に答えはありません。もし生き方や人生に答えがあれば、皆一緒のことしか出来なくなり、1人だけ違うことをしたら間違いとして直されてしまうかもしれません。そして人は何のために生きているのか分からなくなり、みんながみんな同じことをしていたら誰かがいなくなっても分からなくなる、そんな世の中になってしまおうと考えると、人生や生き方に答えがなくて本当に良かったと思いました。今の日本は答えがある訳でもないのに他人の目を気にして、答え通りに動こうとしています。そんなに苦しい生き方をしているのを見ていると、お話を聞いて「答えはすべてではない」という言葉が心から離れません。もっと広い目を見て生きることが出来たらどんなに楽になるのだろうかと思いました。

2つ目は、寄磯小学校の佐々木校長先生からお聞きした「3月10日を大切にしよう」という言葉です。今まで3月11日のことばかり考えていて、3月11日を忘れてはいけない日と思っていました。しかし、忘れてはいけない日は他にも沢山あり、確かに家族や愛する人を亡くした方からすれば「何言っているの?」と思われるかも知れませんが、3月11日だけが皆さんの心に残る日ではないと思ったのです。3月10日やその人の誕生日、記念日や何気ない日々の中にも皆さんが忘れてはいけない日があるのではないかと考え、「3月10日を大切にしよう」という言葉が深く考えさせられるものになったと思います。

私たちに出来る事は、微々たるものだと思います。しかし、共に考え、これからどうするのかという事は出来ます。人に頼るということは、相手に自分の弱い所を見せるようで嫌な人もいるかもしれませんが、頼れるのも、使えるものはどんどん使って良いと思っています。困ったときはお互い様という言葉もあるぐらい、人が困っている時に放っておけないのが人間というものだと私は思います。

3つ目は、別れが自分を強くするのかということです。よく「神様は乗り越えられない試練は与えない」といいます。本当にその通りなのでしょう。本当に別れが自分を強くするのでしょうか。3月11日から6年と言われていますが「昨日のように感じる」と女性がテレビで言っていました。どうしても私はそういう風に考えられません。確かに家や駅など新しくなっていて、前より良い場所になっているかもしれませんが、人の心がそう簡単に前より元気になるというのは考えられません。支え合って生きているかもしれません。もう乗り越えたという人がいるかもしれません。少しでも無理そうと思っている人を、支えていけるような人になりたいと思っています。それはすごく高い理想です。しかし困っている人がいたら全力で助けると思えたボランティアでした。人を支えるような人間になるには、将来の夢に向かって日々努力し、誰もが話しやすく、声をかけられるような人間になることだと思います。笑顔でこれから毎日頑張っていきます。

今回のボランティアに参加させていただきありがとうございました。自分の未熟さと幼さを知る良いボランティアでした。



石巻・東松島に「行く前」と「行ってから」の違いは何か。

あなたは参加して「何を感じ、何を考え」ましたか。そして、この瞬間から「何を行動」しますか。

行く前は被災者の方々の役に立てれば良いなと思っていました。行った後もその気持ちは変わらず、少しでも役に立ちたいという思いがあります。行く前と行ってからの違いは、被災地に対する考え方です。

行く前は、ほとんど復興作業が進められ、心の支えになれば良いと思っていました。

しかし、行ってからだと復興作業はまだ全然進められておらず、もっと心の支えになるべきだと思いました。私たちが今出来る事は少ないけれど、周りの人に事実を伝え、復興作業の手助けになれば良いと思います。

「ボランティアに参加して」

私はボランティアに参加して、今の時間を大切に、私がこの目で見てきたことや事実を周りに伝えていくべきだと思いました。私は大原小学校へ行き、児童たちの学習サポート活動や遊びなどを行いました。とても緊張していましたが、児童たちが温かく迎えてくれたので、あまり緊張せずに楽しんで話すことが出来ました。

1日目は慣れないことが多かったのですが、2日目からはだんだんと慣れてきてスムーズに動けた反面、慣れたことにより心の緩みも出てきてしまいました。

2日目のサポート活動は1日目と違いマンツーマンで教えました。1日目より積極的に話しかけること、仲良くなることが出来ました。夕方から夜にかけてはスポーツ少年団野球の子どもたちと勉強やパーベキュー、花火をやりました。勉強は2人で教えていたので、2時間休憩なしという長い時間でもしっかり勉強することが出来ました。その他のことも同じ部屋で勉強していた子も含め、楽しく行うことが出来ました。

3日目は大原小学校の児童と学習や遊びが最後となり、別れがとても悲しかったです。1年生児童の学習をサポートしていたのですが、名前を覚えてくれてとても嬉しかったです。「ありがとう。」と言ってくれたこと、元気をもらった3日間でした。楽しかった時間とは異なり、気を引き締めて向かった大川小学校では、震災当時と変わらない状態で、津波が来たことを実感しました。テレビや新聞でしか見なかったものが目の前にあり、その場に足を運ぶだけで感じるものは違い、ここでたくさんの方々が亡くなったという事実を受け止めざるを得ない心苦しい場所でした。しかし、この事実を受け止めることで新しいものが生まれるのも確かです。

この長いようで短い6年間で復興は徐々に進められ、被災者も前に進もうと努力している中、私は何をしてきたのだろうか、と考えると、何も出来ずに立ち止まっていた自分が醜いと思いました。自分と向き合い、考えることが出来たのは、たくさんの方が亡くなった被災地に行ったからだと考えています。被災地を見ることで自分も成長することが出来ました。

4日目はほとんど観光のようなものでしたが、その中でも津波や地震の被害にあった自然を見る事が出来ました。特に遊覧船から見た震災前と後の岩の違いに驚きました。とても硬い岩を破壊してしまう程の津波がきたことに改めて恐怖を感じました。東松島市震災復興伝承館で見たものは、さらに衝撃的なものでした。この高さまで津波が来ましたというテープが貼ってあったのですが、それは4メートルぐらいで2階の手前までできていました。更に9~10メートルの津波が来たという場所では、4メートルの2倍以上の高さから水が襲いかかってきたと考えると、恐ろしいものが人々を襲ってきたのだなと実際に感じる事が出来ました。つい6年前の3月10日まで幸せだったのに、3月11日の1日だけで全てが変わってしまったと知り、最初に書いた通り、今の時間を大切にしていこうと強く思いました。

今回ボランティア活動に参加したことで自分自身が大きく成長出来ました。また小学校に行ったり児童と触れ合って笑顔にさせてあげたいと思えたので、もう一度機会があればボランティアに参加したいと思いました。

石巻・東松島に「行く前」と「行ってから」の違いは何か。

あなたは参加して「何を感じ、何を考え」ましたか。そして、この瞬間から「何を行動」しますか。

私は人間関係のことでどう話しかければ良いのか、よく悩むことがあります。寄磯小学校の校長先生が仰っていたように、笑顔で目を見て話せば悪い気持ちになる人はいないと思うので、明るく笑顔で過ごしたいと思いました。

未来のことは分かりません。何が起こるか分かりません。私は写真を撮ることが好きなので、日記を書くように日常も写真に撮って残したいと思いました。そして出来るなら印刷して「データ」ではなく「写真」として残したいです。

「ボランティアに参加して」

私は初めて本格的にボランティアに参加し、人の役に立ったり、ありがとうと言われたり、自分が何かをしたことで人が笑顔になることはとても嬉しい事だと思いました。私が石巻・東松島に行って感じた事は、皆さん本当に心が温かい方ばかり、ということです。接して下さる方は皆さんいつもずっと笑顔が絶えず、私もつい笑顔になってしまう、そんな空気でした。それを見て、いつも笑顔で過ごしていれば毎日が幸せになると思ったので、笑顔を意識して生活したいと思います。

1日目、宮城県に入ってから思ったことは工事が多いということです。自分の家の近くではあまり見ないので、そこが震災を物語っているなと思いました。初めて小学生に会った時は上手く話せるか心配でしたが、みんな楽しそうに話してくれて、私も自然と笑顔で話せたので良かったです。

2日目、午前中はみんなで頑張って勉強をしました。その時、隣の子が分からないと言っていた国語の問題を、理解してもらえるように説明出来たのがとても嬉しかったです。午後、私は初めてドッジビーという遊びをやりました。そして私はまさかの1投目で当てられてしまい、とても恥ずかしかったです。その後の鹿妻・小鹿クラブの小学生に勉強を教えた時に貸した消しゴムを、間違えて持って帰られてしまったのも1つの良い思い出です。その後にやった花火もとても綺麗で嬉しかったです。

3日目、小学4年生に算数の解説をしている時、自分は分かるのでどう説明して良いか分からない、となっていた時、2日目に国語を教えていた子を見ていた2年生の先輩が教えていて、すごいなぁと思いました。そのため、自分が分かっていることを分からない人に理解出来るように伝えるのがとても難しいということが分かりました。

寄磯小学校を出発する前にみんなが歌ってくれたカントリーロードは、歌詞がまたどこかで出会えると言われているような気がしてすごく心に響きました。そしてハモリも上手く、コーラス部として小学生6人だけで歌えるのは見習わなきゃいけないと思いました。

最後の最後に1年生の男の子が「友達になってくれて、名前を呼んでくれて、嬉しかった。」と言ってくれた時に、今回の私の目的、小学校からしか学べないことを学びたい、という目標を達成出来たと思いました。

そして3日目の反省の際に、震災が起きて食べられなくなってしまったことを「自分の娘もそうでした。」と伊藤さんが仰って下さり、思い出させてしまって申し訳ないという気持ちと、少しでも心で会話出来たような気がして本当に嬉しくなりました。今回このボランティアに参加出来たことを無駄にせず、人に伝えるべきことは伝えて今後を活かしたいと思います。

